

## 2020(令和 2)年度 自己点検・評価の概要

### (1) 授業評価

授業評価に関しましては各期に実施する全校学生に対して実施した授業アンケートをもとに評価しました。下表の表-1 は評価の内容として、各科目の「授業時間の厳守」(以下「定刻」という。)と「授業内容の理解」(以下「理解」という。)の 2 点についてクラス毎に実施し、数値化し加えて平均したものを「総合点」と称し、各期の全科目の平均を「総合点平均」として表したものであります。

表-1 各期と全教科の総合点平均

| 期      | 総合点平均 | 変化 |
|--------|-------|----|
| H29 前期 | 86    | ▼1 |
| H29 後期 | 86    | -  |
| H30 前期 | 87    | △1 |
| H30 後期 | 88    | △1 |
| R 元前期  | 87    | ▼1 |
| R 元後期  | 87    | -  |
| R 2 前期 | 85    | ▼2 |
| R 2 後期 | 89    | △4 |

表-2 総合点と科目数

| 期/総合点  | 80 点以上 | 70 点以上 | 60 点以上 | 60 点未満 |
|--------|--------|--------|--------|--------|
| H29 前期 | 66     | 3      | 2      | 0      |
| H29 後期 | 69     | 3      | 0      | 0      |
| H30 前期 | 68     | 3      | 0      | 0      |
| H30 後期 | 67     | 5      | 0      | 0      |
| R 元前期  | 66     | 4      | 1      | 0      |
| R 元後期  | 69     | 3      | 0      | 0      |
| R 2 前期 | 68     | 3      | 0      | 0      |
| R 2 後期 | 70     | 2      | 0      | 0      |

表-1 より今年度の年間総合点平均は昨年度と同値の 87 点となりました。各期で検討しますと前期は前年度後期より 2 ポイント下がりましたがこの要因を学生アンケート調査コメント内容から考察しますとコロナ禍対応として実施した講義科目のオンライン(オンデマンド型)を活用した自宅学習における取組時刻等未設定がアンケート項目の「定刻」に反映されたものと思われます。後期においては 1 年建築デザイン科合同科目に対して学内にて一部オンラインライブ授業を実施、その他は対面授業を実施しました結果か全学年において「定刻」評価が上がり結果、総合点が上がったものと思われます。他方、理解度に関しては低学年で前後期とも 80 点を維持できました。細部、講義形式科目と実習系科目で分けて前後期点を見てみると増減値差が大きかったのは講義形式科目でありました。また表-2 より今後において全科目、総合点評価 80 点以上をめざし、わかる授業をお願いする次第であります。

表-3 学年クラスごとの年間総合点(数値目標 90 点) 平均

| クラス(A:工学科、B:デザイン科) | 1A | 2A | 3A | 4A | 1B | 2B |
|--------------------|----|----|----|----|----|----|
| 年間(前・後期)総合点平均      | 89 | 90 | 86 | 83 | 89 | 84 |

表-3 について下級学年は数値目標を達成もしくは近い値であるが上級・卒業学年では比べて低値でありました。アンケート記述では前期のオンライン授業に関して「追加連絡が欲しい・資料内容誤りへの質問がし難い」など複数意見がありました。「理解」評価に関わる内容では、細部で講義科目において音声・発声板書・説明スピード・配付資料などへの意見・要望でした。また、実習系科目についてはプロジェクター使用・説明時間の多少などがありました。先生方にはこれらの学生意見を含みおきいただきまして次年度への授業準備等よろしく願い申し上げます。

表-4 今年度の出席状況と次年度予想(2021/3/8)

| クラス | 2020(令和 2)年度の状況                                    | 2021(令和 3)年度の予想                        |
|-----|--|--|
| 4A  | 前期の出席不良者は 2 人で内 1 人は年度末に退学。クラスの後期の出席率は悪い。70%台 7 人。 | 卒業。                                    |
| 3A  | 前後期とも出席率は良い。後期、出席率が最低で 89%が 1 人、真面目に取り組むクラス。       | (新 4A)前年度後期の出席率を維持できれば全員がそろって卒業が見込まれる。 |

|     |  |  |
|-----|--|--|
| 2A  | 前期の出席不良者 3 人の内 2 人が退学。長期欠席及び出席率 34%がいる。その他 3 人が出席不良者。  | (新 3A) 出席・成績不良者が 4 人いるがそのまま改善しないと卒業学年への進級が難しい。継続して注意指導を行う必要がある。  |
| 1A  | 前期 7 人の出席不良者、内 3 人が前期中退学。後期の出席率は悪い。50%以下が 5 人。60~85%以下が 6 人。   | (新 2A)出席・成績不良者が 4 人いるがそのまま改善しないと進級が難しい。継続して注意指導を行う必要がある。   |
| 2B  | 1 組:前期、出席不良者は 3~6 人。後期の出席率は標準。61%以下 3 人。70~83%未満 3 人<br>2 組: 前後期長期欠席者 1 人。前期の出席不良者は 3~6 人、内 1 人が退学。後期の出席率は悪い。62%以下 3 人。70~84%未満 4 人。 | 卒業。(留年の可能性がある出席・成績不良者 1 人。)  |
| 1B  | 1 組:前期の出席不良者は 4 人。後期の出席率は悪い。59%以下 7 人。70%~84%未満 7 人。<br>2 組: 前期の出席不良者は 4 人、内 2 人が退学。後期の出席率は良い。59%未満 2 人。74~82%未満 2 人。                | (新 2B)1 組:出席・成績不良者 4 人が進級するが改善しないと卒業が難しい。継続して注意指導を行う必要がある。<br>2 組:出席・成績不良者 2 人、成績不良者 2 人が進級するが改善しないと卒業が難しい。継続して注意指導を行う必要がある。 |
| まとめ | 出席の良くない学生には初心の志を再確認させ出席の重要性を再認識させる。また、担任と科目担当者、必要により保護者が連携し長欠席を防止する。   |  |

## (2) 退学者状況

表-5 退学者の推移

| 年度  | 退学者計 | 在籍数 | 退学率 (%) |
|-----|------|-----|---------|
| H21 | 8    | 100 | 7.8     |
| H22 | 9    | 102 | 8.8     |
| H23 | 9    | 102 | 8.8     |
| H24 | 3    | 91  | 3.3     |
| H25 | 7    | 80  | 8.8     |
| H26 | 11   | 115 | 9.6     |
| H27 | 21   | 165 | 12.1    |
| H28 | 24   | 228 | 8.3     |
| H29 | 21   | 281 | 7.4     |
| H30 | 20   | 294 | 6.8     |
| R元  | 24   | 258 | 8.5     |
| R2  | 22   | 298 | 7.4     |

表-6 2021(令和 3)年度退学者数(2021/3/6 現在)

| 月   | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 |
|-----|---|---|---|---|---|---|----|----|----|---|---|---|----|
| 組   | 0 | 0 | 0 | 3 | 6 | 4 | 0  | 2  | 2  | 2 | 3 | * | 22 |
| 1A  |   |   |   | 1 | 1 | 1 |    | 2  |    | 1 |   |   | 6  |
| 2A  |   |   |   | 1 | 1 | 1 |    |    |    |   |   |   | 3  |
| 3A  |   |   |   |   |   |   |    |    | 1  |   |   |   | 1  |
| 4A  |   |   |   |   |   |   |    |    |    |   | 1 |   | 1  |
| 1B1 |   |   |   |   | 1 |   |    |    |    |   |   |   | 1  |
| 1B2 |   |   |   |   | 2 | 1 |    |    | 1  | 1 | 2 |   | 7  |
| 2B1 |   |   |   | 1 |   | 1 |    |    |    |   |   |   | 2  |
| 2B2 |   |   |   |   | 1 |   |    |    |    |   |   |   | 1  |

表-4 の出席状況に関してはコロナ禍対応により分散登校等を実施しましたため電子システムデータによらず科目担当者の報告を受けまとめて記載しました。後期に関しては電子データ結果より記述したものです。

次に退学者に関してですが、年度の退学者数は 3 月の進級判定会議結果による留年者の動向で、最終的には次年度 4 月の会議にて決定します。例年、留年により退学者が数名出ておりますので、今後、退学者数は増加する可能性があります。

表-5 より、今年度は 22 人の退学者が発生しました。退学率は 7.4%で平成 28 年度、入学定員を 80 人から 120 人に増加して以来 7%から 8.5%になっております。

表-6 は今年度のクラス別の退学者数を示したものです。退学理由として主なものは就職が 45%、進路変更(進

学又は就職)が約 20%、経済的理由 10%、健康上又は経済的理由などが挙げられます。過去の退学者の共通の傾向を調査した結果、高等学校時代の欠席日数が多いこと、または通学が身に付いていない、高等学校のランクや教科の評定が低いことです。このことは本校の時間割に対応できず欠席、その影響で授業内容がわからなくなり、長欠席から課題等未提出、単位未修得が生じることにより建設の人としての志が薄れて退学に傾いてしまいます。退学者を減少させるため、一般出願時の高等学校調査書記載の内容で欠席数が多い場合は面接試験を実施し必要な注意を促し、また予防対策として前もって学校説明会での個人面談のさいに確認の上、必要な話(学生出席率 90%以上)をしています。

病気を理由に退学する学生については持病や精神的障害により通学の困難さが妨げになり長欠席を理由に退学してしまいます。本人の専門を学ぶ強い意志があるにも関わらず病気によりその思いが果たせないことは残念であります。経済的理由により退学を余儀なくされる学生は多くはありませんが、このような学生には本年度から始まりました文部科学省の「高等教育修学支援新制度」を紹介していきます。

入学者を全員、就職(一部進学)させることが本校の使命であります。専任教員には上記の就職や進路変更が理由の退学者を減少させるため、科目担当の先生方には入学時の建築に対するモチベーションを維持・向上させるための教育指導を継続して実施いただき、また、担任においてはとくに生活指導などご父母等、保護者とも連携をはかり、退学防止に努めていただくことをお願いいたします。

### (3) 就職活動状況

表-7 過去 5 年間のクラス別の学校依頼者内定率 (2021/2/18 現在)

| 学 科     | 平成 28 年度 |       | 平成 29 年度 |       | 平成 30 年度 |       | 令和元年度 |       | 令和 2 年度 |       |
|---------|----------|-------|----------|-------|----------|-------|-------|-------|---------|-------|
|         | 100%     | 5/5   | 100%     | 12/12 | 100%     | 17/17 | 100%  | 17/17 | 100%    | 25/25 |
| 建築工学科   | 100%     | 5/5   | 100%     | 12/12 | 100%     | 17/17 | 100%  | 17/17 | 100%    | 25/25 |
| 建築デザイン科 | 100%     | 24/24 | 100%     | 44/44 | 100%     | 46/46 | 100%  | 29/29 | 88%     | 34/34 |
| 計       | 100%     | 29/29 | 100%     | 56/56 | 100%     | 63/63 | 100%  | 46/46 | 92%     | 59/59 |

表-7 は過去 5 年間の学科別の学校依頼者内定率を示したものです。

本年度の求人倍率(単純に求人件数 / 学校依頼就職希望者)はコロナ禍の影響が考えられ 1 人あたり約 4 社で昨年度約 7.6 社から大きく減少しました。職場実習・インターンシップの受け入れ先も同様に減少しました。就職先等選定に関して両学科平均では学校依頼者が 60%、本人決定者 17%、進学(工学科編入、他大学、大学院)が 14%でありました。

### (4) 資格取得状況

#### 1. 2 級建築施工管理技術検定合格率 2020 年 11 月 8 日 後期試験実施

全国合格平均率 35.9% (前年度 25.3%)

学校一括申込者合格率 18.1% (4 名/22 名) (前年度 21.4% 3 名/14 名)

\*上記の 2 級建築施工管理技術検定(学科試験のみ受験)試験は平成 28 年度において建設業法施行令等改正があり、満 17 歳以上となる方が受験できるようになりました。

#### 2. 福祉住環境コーディネーター検定試験

3 級 2020 年 7 月 5 日 検定試験 中止

全国合格平均率 \_\_\_\_\_% (前年度 60.6%)

本校合格平均率 \_\_\_\_\_% ( 名 / 名) (前年度 64.4% 47 名/ 73 名)

本校受験率 \_\_\_\_\_% ( 名 / 名) (前年度 68.9% 73 名/ 106 名)

※1 学年のみ 欠席者 留年者除く

#### 3. 建築 CAD 検定試験

3 級 2021 年 1 月 9 日 試験実施

全国合格平均率 \_\_\_\_\_ 第 83 回 (前年度 72.0% 第 79 回)

本校合格平均率 \_\_\_\_\_% \_\_\_\_\_名 /25名 (前年度 66.7% 6名/ 9名)  
本校受験率 55.6 % 25名 /45名 (前年度 20.0% 9名/ 45名)

4. MOS(マイクロソフトオフィススペシャリスト)

○Word スペシャリスト 2020年8月8日 検定試験 中止

全国合格平均率 非公開 (前年度 非公開)

本校合格平均率 \_\_\_\_\_%( \_\_\_\_\_名 / \_\_\_\_\_名) (前年度 33.3% 6名/ 18名)

本校受験率 \_\_\_\_\_%( \_\_\_\_\_名 / \_\_\_\_\_名) (前年度 17.0% 18名/ 106名)

※1学年のみ 欠席者 留年者除く

○Excel スペシャリスト 2021年1月23日 試験実施

全国合格平均率 非公開 (前年度 非公開)

本校合格平均率 40.0% (4名 / 10名) (前年度 85.7% 6名/ 7名)

本校受験率 8.06%(10名 / 124名) (前年度 6.60% 7名/ 106名)

※1学年のみ 欠席者 留年者除く

5. JIS 品質管理責任者(JIS 規格より講習)

建築工学科(4年制) 合格率 92.1% (35名 / 38名) (前年度 97.7% 43名/ 44名)

6. 建築積算士補 2021年1月30日 試験実施

建築工学科合格率 55.5% (15名 / 27名) (前年度 92.0% 23名/ 25名)

建築デザイン科合格率 69.2% (9名 / 13名) (前年度 80.6% 25名/ 31名)